

第5章 〔連携・協働〕

持続可能な環境づくりのために行動する人の輪を広げるまち



① 豊島区の現状

● 地域に広がる環境ムーブメント

豊島区では、環境に配慮した暮らしをしている区民の方々をはじめ、企業、大学、商店街、NPOなどのさまざまな主体によって、緑化や太陽光発電、LED照明導入などの環境配慮行動の実践が広がっています。

環境問題の解決には、このような一人ひとりの取組みが不可欠です。それぞれの取組みが、他の主体と連携・協働することでより大きな動きに発展しつつあります。

● 次世代を担う子どもたちに向けて

環境問題は、遠い将来の話ではなく、現在の日常生活と密接なかかわりを持っています。次世代を担う子どもたちがこのことに気づき、学ぶことは、持続可能な社会を形成していく上で重要なことです。

そのため、区では、区民の方々や地域団体との連携・協働により、子どもを対象とした環境教育事業を実施しています。また、小中学校においても、社会科や理科、総合的な学習の時間等において環境教育に取り組んでいます。



「豊島の森」環境講座（冬）



「豊島の森」環境講座（秋）

「豊島の森」環境講座の様子（令和5年5月～令和6年2月）

② 施策の実施状況

リーディングプロジェクト

●としまクリーンサポーター制度（資料 P.97）

区内の企業・団体等が、きれいなまちづくりのサポーター「クリーンサポーター」として、自主的な環境美化活動を実践することにより、自分たちの街を自分たちできれいにしていく取組みです。

クリーンサポーターの皆さまには、その証としてステッカーを配付しています。



取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
企業等の自主的な 環境活動(としま クリーンサポーター 登録団体数)	133団体	150団体	141団体	170団体	

《評価・分析》

令和5年度は11件の新規登録がありました。社会貢献活動を始めたい企業・団体の方が登録し、区内の清掃を積極的に取り組んでいただいています。

《今後の取組み》

ホームページなどで制度の周知を行い、登録団体が増えるように取り組みます。また、多様な主体の連携による環境活動のさらなる活性化を目指していきます。(環境保全課 環境美化グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅳ-2 美しいまちづくりを推進する

連-3 連携・協働の仕組みをつくる

●「グリーンとしま」再生プロジェクト（資料 P.97）

平成 21 年度から始まった「グリーンとしま」再生プロジェクトでは、区民、地域活動団体、企業等からなる実行委員会のもと、様々な緑化活動を行っています。

「としまグリーンウェイブ」は、植樹や樹木の手入れ・樹木とふれあうイベント等を行い、生物多様性を理解するきっかけとする活動です。同プロジェクトを一層進めるため、3 月 1 日から 6 月 15 日までを「としまグリーンウェイブ」期間として、区内での緑化活動を区民等に広く呼びかけるものです。

▶「いのちの森」「学校の森」

緑豊かな地域の再生と、地域に住む人々を守る「いのちの森」「学校の森」をつくるため、区立公園などに約 1,600 本の植樹を行いました。また、民有地に広げる展開として、「いのちの森」「学校の森」づくりで植栽している苗を約 3,300 本配付しました。

▶誕生記念樹の配付

お子さんの誕生を祝い、健やかな成長を願って、誕生記念樹として「いのちの森」の苗木を 541 本贈りました。新しい命が「いのちの森」の樹木とともに心豊かに成長することを願い、区内の緑化を推進します。

《評価・分析》

「としまグリーンウェイブ」では、実行委員会及び区が実施する講座や育樹活動のほかに、区民等によるグループが植樹等の活動を行い、高密都市の中でみどりを増やすと同時にみどりに親しむ機会となっています。

令和 5 年度は、実行委員会において近隣住民といっしょに「いのちの森」の育樹活動を行ったほか、これまでの取組みを広めるため、ファーマーズマーケットにおいて活動を周知し、苗木の配布を行いました。

植樹や捕植の取組みは、公園等に継続的に実施し、150,000 本を超えるまでになりました。

《今後の取組み》

今後も「グリーンとしま」の実現に向けて、実行委員会を中心として、地域の方々とも連携し、さらなる緑化を進めます。

また、プロジェクトの初期に植樹した樹木が成長する一方、都市の中に森を作る難しさも明らかになってきています。今後は、森をいかに維持していくかが解決すべき大きな課題となっており維持管理についても検討していきます。（環境政策課事業グループ）

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-2 みどりを保全・創出する

連-3 連携・協働の仕組みをつくる

● 自治体間連携によるカーボン・オフセット事業（用語解説 P.102・103）

豊島区では、交流都市である埼玉県秩父市や長野県箕輪町と森林整備協定を締結し、両自治体の森林整備を行っています。協定先自治体の森林を「としまの森」として整備することにより得られるCO₂吸収量によって、区内で発生するCO₂を埋め合わせるカーボン・オフセットを推進していきます。



「としまの森」における自然体験の様子

さらに、整備した「としまの森」において、都市部では体験できないダイナミックな自然体験を伴う環境交流事業を実施し、区民の皆さまへの環境教育を促進していきます。

《評価・分析》

令和5年度は、秩父市、箕輪町の「としまの森」において、間伐、下刈り、遊歩道整備などにより、合計1.09ヘクタールの森林整備を行いました。整備後は、それぞれの県の森林CO₂吸収量認証を受け、合計32.3t（複数年認証分含む）のCO₂削減につながりました。

「としまの森」現地を訪れる環境交流ツアーについては、令和5年度は秩父市で76名、箕輪町で36名が参加し、林業体験や木工体験などを行いました。

《今後の取組み》

今後も秩父市、箕輪町の「としまの森」の整備や両自治体との環境交流事業を実施していきます。（環境政策課 環境計画グループ）

【関連する環境基本計画の施策の方向】

I-5 低炭素なまちをつくる

連-1 環境教育を促進する

連-3 連携・協働の仕組みをつくる

● 大学・企業等との協定

豊島区では、平成22年度から大正大学と協定を締結し、学生の参加を得て、地球温暖化の防止や生物多様性の保全に関する普及啓発及び情報提供等を行う事業を実施しています。

また、令和5年度にはサントリーグループと23区で初めて環境包括連携協定を締結し、あわせて、「豊島区環境アクション宣言」を実施しました。脱炭素社会の実現や資源循環ライフスタイルの推進、環境教育・啓発等について、ネットワークや人材、発信力等を有効に活用し、環境への取組みを強力に推し進めていきます。

《評価・分析》

令和5年度大正大学との協定事業では、5月に池袋本町電車の見える公園で「いのちの森」育樹活動に学生が参加し、12月には環境政策課が学生に講義を実施し、若い世代に区の環境施策について知ってもらう機会となりました。

また、12月に実施した2023としまエコライフフェアでは、サントリーグループが区と共同で「ボトル to ボトル」水平リサイクルブースを出展し、来場者から「ペットボトルのリサイクルについて知ることができ、勉強になった。」などの感想をいただき、環境配慮行動に関心を持ってもらう良い機会となりました。

《今後の取組み》

今後、さらに企業等との連携を進め、公民連携による環境への取組みを一層進めていきます。(環境政策課 調整グループ・事業グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

連-3 連携・協働の仕組みをつくる

● 環境活動推進団体等感謝状贈呈（資料 P.97）

豊島区では、地球温暖化防止対策・生物多様性保全活動、環境美化活動、資源リサイクル運動の各分野において、顕著な功績があった個人又は団体に対して、感謝状の贈呈を行っています。



感謝状贈呈式

取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
家庭・事業所での優れた 取組みに対する表彰数 (表彰数/年)	44 件	44 件	44 件	36 件	

《評価・分析》

令和5年度は、環境美化活動と資源リサイクル運動の分野において31名・5団体の方を表彰しました。毎年町会等から推薦されており、表彰制度について広く周知されています。

《今後の取組み》

表彰制度を継続し、日頃の環境活動に対する貢献に感謝の意を表します。(環境政策課 調整グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

連-2 環境人材を育成し、活動の場を広げる

● 環境教育支援プログラム（資料 P.97）

「学校の森」植樹をきっかけに、小中学校における環境教育の取組みが盛んになっています。

様々な分野の専門家を派遣し、校庭や地域の自然観察や、プールにいるヤゴ等の水生生物の生態を学ぶ授業、令和5年度から試行実施した民間企業等による出前授業など、各学校の特性に合わせた環境授業を実施しています。

支援内容	実績
環境授業支援校	のべ 34 校

取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
環境教育支援プログラムの 参加校	21校	30校	25校	34校	

《評価・分析》

環境教育支援は、学校の授業に組み込むことによって学校側が取り組みやすく効果的な方法です。学校における環境教育に対する具体的支援となっており、教員に対しての環境教育に関する情報提供の場としても生かされています。

《今後の取組み》

今後も小中学校のニーズに合わせて継続して実施します。（環境政策課 事業グループ）



環境授業「校庭の自然観察」（池袋本町小学校）

【関連する環境基本計画の施策の方向】

連-1 環境教育を促進する

連-3 連携・協働の仕組みをつくる

● としまエコライフフェア（資料 P.98）

「としまエコライフフェア」は、区で行っている環境関連イベントの中でも最大規模のものです。

地球温暖化対策やエネルギー政策、生物多様性を視野に入れ、テーマを広げることにより、来場者の関心を高め、環境にやさしい行動を起こす契機となることを目指しました。

また、このフェアを通じて生まれた参加団体間のコミュニケーションは、フェアに限らず様々な事業を展開する際に大きな効果をもたらすことが期待されます。

実施日	参加者数
12月23日	453



2023 エコライフフェアの様子

《評価・分析》

省エネルギーや 3R、自然や生物とのふれあいなど、各出展者が工夫を凝らした展示やワークショップを展開しています。

令和 5 年度は、4 年ぶりの開催となりましたが、多くの方にご来場いただきました。また、「環境についていろいろ知ることができた」との感想をいただき、楽しみながら環境にやさしい暮らしについて考える、良い機会とすることができました。

《今後の取組み》

子どもから大人まで幅広い世代の区民の方々が環境について知り、考える機会になる場となっています。今後も引き続き開催していきます。(環境政策課 事業グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

連-1 環境教育を促進する

● 環境情報誌「エコのわ」(資料 P.98)

「エコのわ」は、区が発行する環境情報誌です。「日常生活から地球環境を見直す」という視点に立ち、環境に配慮した暮らしや、それを実現する方法などをわかりやすく伝えることにより、区民の方々の生活スタイルの転換を図ることを目的として発行しています。区民や区内の団体等に取材を行うなど、身近に感じてもらえるよう、編集しています。



32号



33号

	実績
発行	年 2 回
部数	年間 32,000 部
内容	「プラスチックで環境にやさしく～プラスチックと私たちの生活～」 「水資源を大切にしよう～水の星・地球の未来を守るために～」ほか

《評価・分析》

令和 5 年度は、プラスチックや水資源を題材とし、限られた資源を大切にする身近な取組みについて掲載しました。子どもから大人まで楽しみながら環境について学べる内容となっています。

《今後の取組み》

今後も、より多くの方に手に取ってもらえるようなテーマを取り上げ、わかりやすく見やすい誌面を作成し、環境に配慮した行動への変容を促します。(環境政策課 事業グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

I-2 家庭における環境配慮行動を促進する

連-1 環境教育を促進する

● 環境とリサイクルに関するポスターコンクール（資料 P.98）

未来のことを考える人材の育成及び意識啓発を図ることを目的として、区内に在住・在学の小・中学生を対象に、環境保全や環境美化、3R、エコライフ等に関するポスターコンクールを行っています。令和5年度は、428点の応募があり、審査の結果入賞となった24作品を、庁舎内で展示しました。



庁舎内での入賞作品の展示

《評価・分析》

令和5年度も多く応募があり、小・中学生に対する意識啓発に効果があります。

《今後の取り組み》

ポスター作りは、子どもたちが環境について考える機会となります。より多くの児童生徒から応募があるように引き続き工夫をしていきます。（環境政策課 事業グループ）

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅲ-1 リデュース・リユースを推進する

連-1 環境教育を促進する

● 環境月間パネル展示

1972年に開催された国連人間環境会議を記念して、国連は毎年6月5日を「世界環境デー」と定め、日本ではその日を「環境の日」、6月を「環境月間」としています。

豊島区では、この「環境月間」に庁舎内で環境に関わるパネル展示を行っています。令和5年度は、本庁舎4階のまるとミュージアムで、区民が身近に取り組める環境にやさしいライフスタイルの例をパネルで紹介し、実践を呼びかけました。また、楽しみながらエコを学べる「クール・チョイスすごろく」も展示しました。



《評価・分析》

庁舎を訪れた区民の方々等が気軽に接することができる環境啓発の場となっています。

《今後の取組み》

引き続き、その時々テーマに沿ったパネル展示を実施します。(環境政策課 事業グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1 生物多様性を保全する

連-1 環境教育を促進する

●「豊島の森」を活用した講座（資料 P.98）

区庁舎 10 階屋上庭園「豊島の森」には豊島区の自然が再現されており、区の植生や生態など自然のしくみを学びながら憩える場となっています。この「豊島の森」で、豊島区の自然を学べる講座を春、秋、冬の 3 回実施しています。

実施日	内 容	参加者数
5 月 28 日	春の自然観察	8 名
11 月 26 日	秋の自然観察	13 名
2 月 4 日	冬の自然観察	19 名

講座の時だけでなく、日頃から校庭や公園など区内のいろいろな場所の植物や生きものに関心をもってもらえるよう、オリジナルの観察ノートを作成し、参加者に配布しています。

《評価・分析》

かつての豊島区にあった自然を知ると同時に、都会の中にも自然があることを学ぶことができる場となっています。

令和 5 年度は、全 3 回を実施しました。

《今後の取組み》

引き続き、小学生を対象に実施します。(環境政策課 事業グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1 生物多様性を保全する

● 池袋西口駅前広場の緑化（モザイカルチャーの設置）（用語解説 P.107）

平成 23 年 3 月、池袋西口に誕生したモザイカルチャーは、立体花壇とも言われ、土の少ない都市部における有効な緑化手法の 1 つです。

モザイカルチャーを設置することで、多くの人々が行き交う池袋西口の駅前から、豊島区的环境緑化への取組みを PR し、緑化啓発の象徴として、その活動を推進していきます。

また、地元の NPO 法人と駅前広場の植栽に関する維持管理協定を締結し、地元の方々をはじめ、池袋警察、企業の方々と協働で、毎週火曜日の 12 時～13 時の間、維持管理作業を行っています。

実施内容	実績
維持管理作業	51 回
モザイカルチャー植替え	3 回
花壇植替え	5 回
維持管理講習会	0 回

《評価・分析》

モザイカルチャーを設置後、10 年以上経過しましたが、ボランティアのみなさんの努力により、ほぼ健全な状態を保っています。

《今後の取組み》

平成 28 年度より、維持管理協定の範囲が増加し、活動がより大変になっています。持続可能な活動にしていくためにも、区として幅広く PR を行っていきます。（道路整備課 道路設計グループ）



【関連する環境基本計画の施策の方向】

I-5 低炭素なまちをつくる

II-2 みどりを保全・創出する

連-3 連携・協働の仕組みをつくる

③ その他の成果指標と取組指標

● 成果指標

成果指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
みんなで(地域や事業者等と連携して)環境保全に取り組んでいる、または取り組みたいと考える区民の割合(%)	—	66.8%	30.8%	39.7%	

● 取組指標

取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
多様な人に向けた環境に関する啓発講座等の参加者数(人/年)	5,541 人 / 年	5,572 人 / 年	5,555 人 / 年	938 人 / 年	
環境リーダーの数(累計)	310 人	382 人	343 人	348 人	

《評価・分析》

多様な人に向けた環境に関する啓発講座等については、毎年 3R の推進啓発をテーマとした出前講座や食品ロス削減の啓発講座、クール・チョイスのイベント等を開催しています。

環境リーダーについては、生きもの学習や清掃活動といった様々な環境分野における活動を率いることができる人材として、多くの方が地域の中で活躍しており、着実にその数は増えています。

《今後の取組み》

今後も、多くの方が楽しみながら環境への意識を高めていただけるような講座やイベントを開催していきます。さらに、メールマガジンや SNS など活用して情報発信の方法を工夫していきます。

また、現在活動している環境リーダーへの表彰や支援を行うことで、活動に対するインセンティブの向上を図るとともに、区の環境活動の推進を担う新たな人材を育成していきます。(環境政策課 環境計画グループ・事業グループ 環境保全課 環境美化グループ ごみ減量推進課 事業推進グループ)